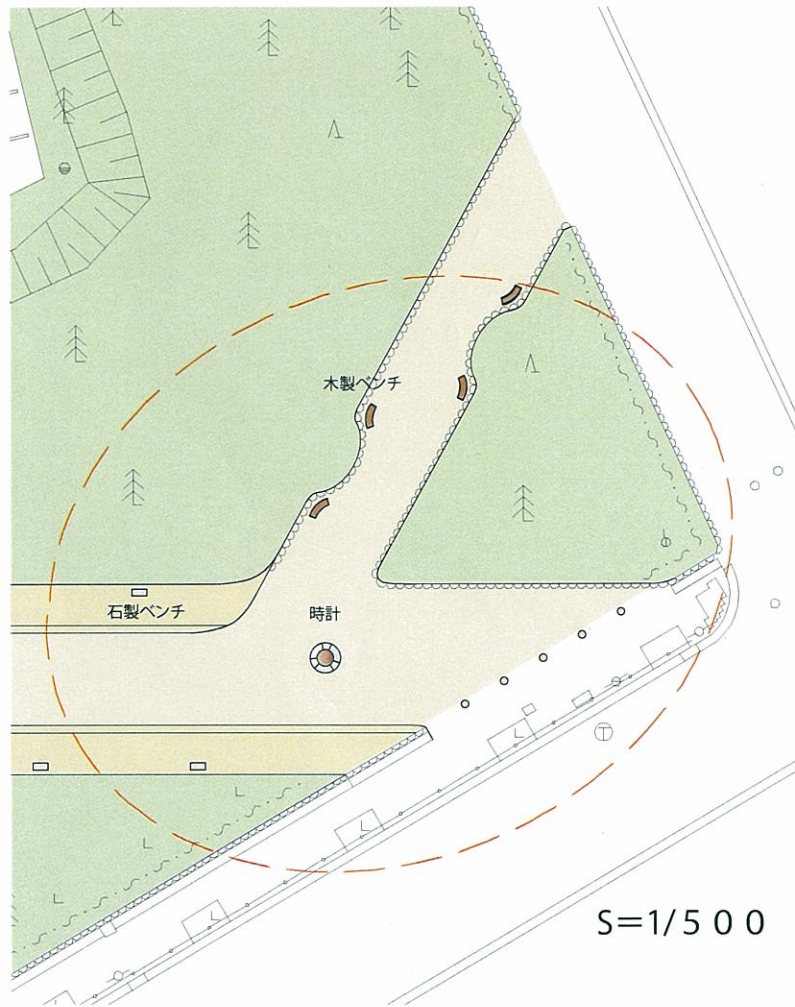


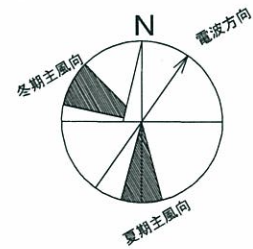
「集い場」



周辺分析

新潟大学五十嵐キャンパスは、目の前を通る市道坂井上新町線沿いには、西小針線のバスが通ることもあり商店が多く見られるが、そこを除けば、学生のアパートや地域住民の一軒家が立ち並ぶ住宅地の中に位置します。

キャンパスには緑も多く、地域の自然環境に貢献しているが、一方でカラスなどの鳥による糞害に悩まされているという問題もあります。



コンセプト

住宅地が近く、緑も多いということから、キャンパスメインストリートは、新潟大学に通う生徒だけではなく、地域住民の散歩道としての利用も考えられます。

そこで、新しい新潟大学五十嵐キャンパス正門は、学生が空き時間を友人とゆったり過ごしたり、待ち合わせをしたり、また地域の方々が散歩の合間に一息ついていけるような「集いの場」にすることを提案します。

現状の緑を残しつつも、主要動線である市道坂井上新町線への入口は広くとり、明るく地域に開かれたキャンパスメインストリートが歩道を歩いている人からよく見えるようにします。一方、市道坂井上新町線に比べ細い市道西2-42号線への道は、少し道幅を狭くして木々との距離を近くし、また周りの緑が半円状に飛び出している箇所をつくることで直線の道に動きをつけ、自然を身近に感じられる道にします。

時計

2本の道が交わる場所には、円形の花壇をつくり、その中心にアイストップ・モニュメントとなる時計を設けます。

キャンパスメインストリートを歩く人や市道坂井上新町線を歩く人に時間を知らせるだけでなく、サークルや部活の集合場所となったり、友人との待ち合わせの場所となったりします。



ベンチ

メインストリート・モニュメントとして、歩いている人たちが一休みしたり、友人と会話を楽しんだりすることができるベンチを設けます。

まっすぐ市道坂井上新町線方向に抜ける道には、石造りのベンチを置き、時計の設置された花壇と一体となったベンチや入口に並ぶ丸い車止めと同じ石づくりにする事で、統一感を出しています。

一方、道幅が狭く木々との距離が近い市道西2-42号線に抜ける道には、緑に調和するような木製の曲線ベンチを置きます。道に緑が飛び出してくる場所をつくることで出来たアルコーブにベンチを置くので、周囲からの視線も気にならず、緑に包まれた落ち着いた空間となります。

